

LEAF No.78

いざというとき！

もしもの時の選択肢はたくさん持つておこう！

NODACITY LIBRARY YOUNG ADULT CORNER



図書館のHPでも、「LEAF」が見られるよ！
投稿フォームもあるから、
中学生・高校生におすすめしたい本があったら、こっそり教えてね。
ホームページのURLは
<http://www.library-noda.jp/> だよ。
一度のぞいてみてね。

発行：野田市立図書館YAサービス 2024. 3

興風：TEL 7123-7611 南：TEL 7125-7981

北：TEL 7129-8811 せきやど：TEL 7198-4946

「もうすぐ大人になる君が知っておくべき 13 歳からの民法」

岡 信太郎 著
扶桑社
所蔵館 南 せ



法律とは、私たちが守らなければいけないと同時に私たちが理不尽な出来事から守ってくれるものである。

社会でいう「大人」とは今では18歳以上の人のことを指す。大人になると自分で高額な商品を買う契約をしたりクレジットカードを作ったりすることができるようになる。色々と便利になる半面、トラブルに遭遇する機会も急に増える。

仲の良い友達に「保証人になって」と言われたら？ ネットで頼んだ商品が届かなかったら？ SNSで自分の写真を勝手に上げられたら……どうする？

友達との関係、家、習い事、SNSなど身近な例を挙げて民法について解説する。大人へと近づく道しるべとして読んでほしい本。

名門トウソン高校に主席で入学した主人公のジュノは、成績が下がっていくことに対する不安を常に抱えていた。しかし、親友やサークルメンバーなど、かけがえのない仲間たちと過ごす日常の中で、苦しい青春を生き抜く法則を見つけていく……。

ジュノの大切な仲間の一であるユビンの「またいつか会えるよ。自由の海で」という言葉は、今を前向きに懸命に生きる若者の心からの願いではないかと感じる。

十代の若者に寄り添い、エールを送り続けてきた著者だからこそ、国境を越えて我々の心にも響く物語となっているのではないだろうか。

自分の今や未来のために奔走するあなたへ贈る一冊。



「優等生サバイバル」

ファン・ヨンミ 著
キム・イネ 訳
評論社 所蔵館 南



「漫画方丈記」

鴨 長明 著
信吉 漫画
文響社 所蔵館 北

枕草子、徒然草と並ぶ日本三大エッセイ「方丈記」のストーリーを漫画で分かりやすく読める。

作者の鴨長明は、今からおよそ800年前、平安時代末期から鎌倉時代初期に生きた人物。

前半では見聞した火災・飢饉・疾病・大震災・大風などを、後半では晩年に一間だけの庵で過ごしたつましい暮らしぶりを書く。広い住居を棄てて、物や富に執着しない暮らしを選び、今でいう断捨離をした。その心の持ちようには、現代の私たちにも共感できるところがたくさんある。

さまざまな災害が起こり、経済も不安定な今、生活への不安な思いを感じた時に「方丈記」を読むと、心おだやかに過ごすヒントを得られるだろう。

高校を中退し、お気楽な日々を過ごしていたヤン「スーパー(の)プリンセス」キー少女の大沢まこと。そんな彼女を襲った、シングルマザーである母親の突然の入院というピンチ。今までのようにお気楽ではいられないと気付いた彼女は、バイク仲間のコネを使いスーパーで働き始めるが、まことを嫌う先輩のおばさんたちは嫌がらせをしてくるし、他の店員もやる気がないし、野菜売り場の野菜もしなびてるし、なによりスーパーは、経営不振で大手不動産が土地を狙っている絶体絶命の状態だった！

決して「いい子」ってわけでもないまことだけど、基本的にまっすぐなインシシ気質の彼女が、問題が起こってもひるむ事なく、その気質のままにまっすぐ突き進んで周りを巻き込む姿は爽快で、次は何をやらかしてくれるかと、ワクワクするよ。

佐和 みずえ 作
 O仮名だモ 絵
 静山社 刊
 所蔵館 興



「16歳の語り部」
 雁部 那由多・他著
 ポプラ社
 所蔵館 せ

本書は2011年3月11日の東日本大震災当時、被災地の小学校5年生だった3人が、5年経って高校生になった時に語った言葉の記録だ。震災当時、周囲の様子など何もわからず忘れてしまうような子どもではなく、しかし大人でもなかった彼・彼女たち。ニュースや資料では大人から見た記録ばかり残るが、この本では震災時に小学生だった子どもが、何を見て、何を思いながら中学時代を過ごしたか、大人たちの様子について何を思ったか等を、ありのままに語っている。また、被災地での3人の話に対して、当時未災地にいた同年代の子どもと、被災地の大人の語りも収録されている。

辛いことは忘れた方がいいという人もいるけれど、こうやって伝え残していくこともきっと大事なことだろう。

災害が起きたとき、自分の身を守るために
 何をします？

「SOS」「ファイヤー」「ウォーター」「ナイフ」「シェルター」「ファーストエイド」「フード」「チームビルド」の8つのプログラムを通して、災害時に役立つサバイバルの知識や技術、心がまえを身につけるための本。

災害発生後の様子がイラストをまじえた物語として書かれており、その時々はどう行動するべきか想像しやすい。応急手当やロープの結び方など、キャンプや日常生活で使える技術も紹介されている。プログラムごとにクイズを解き、いくつかのステップを体験して、課題をクリアすることでサバイバルマスターになれる。

真のサバイバルマスターをめざして、チャレンジしよう！

「もしときサバイバル術 Jr.」

片山 誠 著
 太郎次郎社エディタス
 所蔵館 興 北





「こどものための 防災教室」

今泉 マユ子 著
シリーズ全3巻 理論社
所蔵館 興 せ

災害は、いつ起こるか分からない。その時は助かっても、ライフラインが止まってしまったら大変だ。そこでこちら、サブタイトルは「災害食がわかる本」。救助や必要物資が来るまでの間、何を飲み食いしてしのぐかは、避難生活をするうえでかなり重要なことだ。この本は「こどものための」と銘打つくらいなので、ゆるかわいいイラストとかんたんな文章で、災害時の避難・食糧事情をわかりやすく解説している。その一方、何がどのくらい必要か・そもそもどんなものがあるのか・どのくらい持つのか・貯蔵のしかた・水・主食・おかず・おやつ・調理不要な食品・最低限の道具で作れるレシピなど、本の内容はとても充実しているので、同シリーズの身の守り方や防災グッズの本と一緒に、家族で読むのもおすすめしたい。

青い髪と瞳を持って生まれた

「臆病な僕でも勇者になれた七つの教え」

キラは友達や父親からバケモノと呼ばれコンプレックスを抱きながら日々自分を責めて過ごしていた。そんなキラが深く暗い森の中で学校の人気者である野球少年リクと出会い、願いが叶うといわれる「7つの石」を集める冒険に出る。森に住むカエルの姿をした神の使い「老師（ラオシー）」やキラの飼っている犬「とんび」も2人を助け、一步を踏み出す勇気をくれる。

本の中で度々出てくる「おじくそ」という方言は、臆病者や弱虫・いじなしと言った意味を持つ言葉で、作者の出身地である徳島県だけでなく関東（千葉）でも使われているようだ。「怖気づく」から派生している「おじくそ」はこの本のテーマであり、自分に自信を持ちたいor心が疲れている人におすすめしたい。

旺季 志ずか 著
サンマーク出版
所蔵館 興



「未知なる冒険の書」

名もなき冒険家 著
トゥーヴァージズ
所蔵館 興



アマゾン奥地の朽ちかけた山小屋から見つかった錆びたトランク。その中には、日記やスケッチブックがぎっしりと詰まっていた。それは世界中を旅した冒険家が記した冒険の書だった。

夜空一面に広がるオーロラや、大自然に沈む夕日。ジャングルのキャンプではジャガーと遭遇し、ボツワナではハイエナに夜襲をかけられ命拾いをしたこと。食料がなければ手のひらサイズのクモや、うじ虫を食べなければならず、結果として好き嫌いはなくなったなど、ちょっとコワイサバイバル体験も基本スキルと共につづられている。

本書を読んで冒険っておもしろそう！と思わせるのは、生き生きとしたイラストが後押ししているのは間違いない。